

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

事例検討
がんの症状緩和と
多職種による在宅療養支援（後半）

* 本資料の作成にあたり、日本緩和医療学会緩和ケア継続教育プログラム(PEACE)資料を一部参考とした。

ミニレクチャー がん疼痛：十分な鎮痛が得られないとき

眠気などの副作用により増量が困難な場合や十分な鎮痛が得られていないとき

- ・鎮痛補助薬
- ・放射線療法
- ・神経ブロック
- ・ビスフォスフォネート製剤
- ・オピオイドローテーション

鎮痛補助薬

- ビリビリした痛みやじんじんした痛みなど神経障害性疼痛に有効な可能性がある
- 副作用(主に眠気)があるので、鎮痛効果と副作用とのバランスを念頭に置く
- 多くの選択肢があるため、選択に迷った場合地域の緩和ケア専門医にコンサルトする

痛みの性状と分類

内臓痛	腹部腫瘍の痛みなど局在があいまいな鈍い痛み	オピオイドが効きやすい
体性痛	骨転移など局在がはっきりした明確な痛み	レスキューが重要 NSAIDsが効きやすい
神経障害性疼痛	神経叢浸潤、脊髄浸潤など、びりびり・じんじんするしびれるような痛み	難治性で鎮痛補助薬を必要とすることが多い

OPTIM: ステップ緩和ケア p13(2008) 一部改変

鎮痛補助薬の選び方

- ビリビリした痛みやじんじんした痛みなど（神経障害性疼痛）で有効な可能性がある

	眠気を許容する	眠気を避けたい
いずれのしびれでも可能	リボトリール	ガバペン リリカ
突然ビリビリ 電気が走る痛みがくる	テグレート	デパケン
持続的にしびれる・ じんじんする	トリプタノール アモキサン	メキシチール

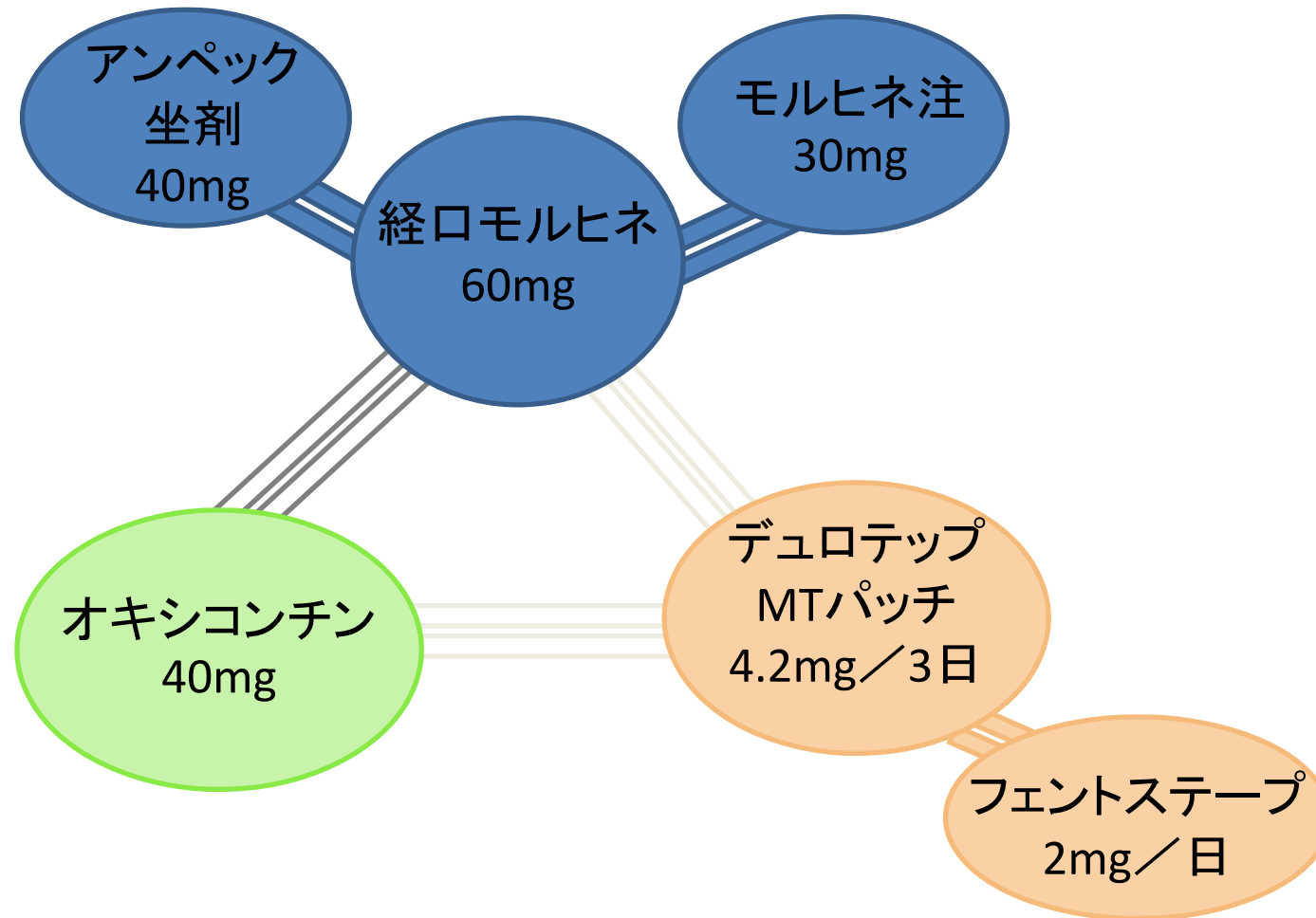
OPTIM: ステップ緩和ケア p129(2008) 一部改変

- 近隣地域の緩和ケア専門医にコンサルテーションできる関係や環境を確保する

オピオイドローテーション

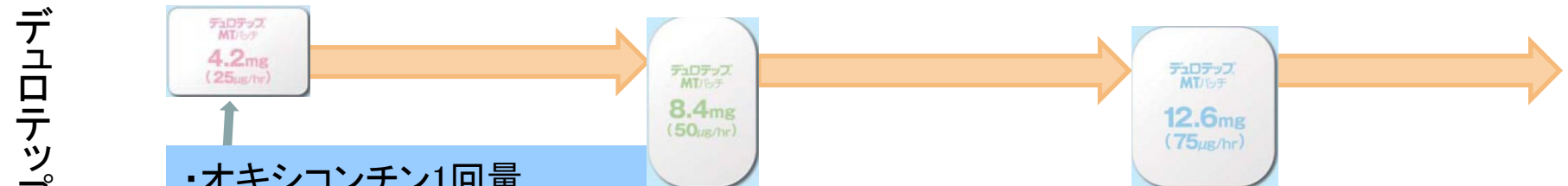
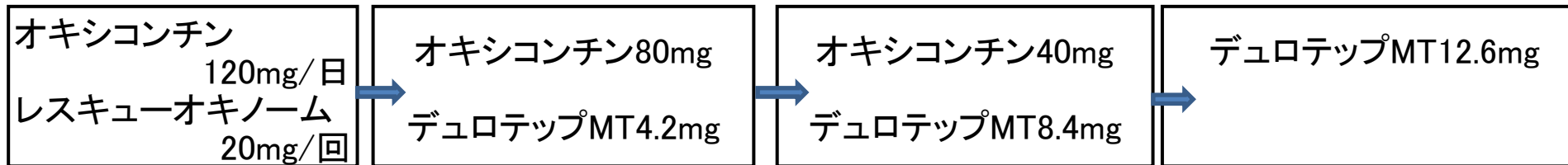
- 鎮痛が十分でない、または副作用のためにオピオイドの種類を変更すること
- 力価表に従って、現在のオピオイドと等価の新しいオピオイドの投与量を決め変更する
- 経口モルヒネ換算120mg以上の場合には原則として一度に変更せずに、30～50%ずつ徐々に置き換える

経口モルヒネ60mg/日と等力価のオピオイド



オピオイドローテーションの実際

例) オキシコンチン[®]120mg/日 → デュロテップMTパッチ[®]



- ・オキシコンチン1回量60mgと同時にデュロテップMT4.2mg貼付
- ・次回からオキシコンチン1回量を40mgへ減量
- ・レスキューはそのまま

服薬にまつわる工夫

痛みの評価

患者家族が使いやすい共通の評価法導入

レスキューの使用

記録ノートの作成、レスキュー指示の単純化

定時薬の飲み忘れ

服薬カレンダーの使用

訪問薬剤管理指導での服薬状況確認

患者家族が実行可能な服薬指導

看護師やヘルパー監視下の内服(1~2回/日)

貼付剤へのローテーション

処方上の留意点と薬剤師との連携

- できるだけシンプルな処方を心がける
種類や内服回数、錠数を少なくする、一包化等
 - 先を見越して早め早めに対応する
オピオイドローテーションの可能性がある場合など
-
- 調剤薬局の体制
訪問薬剤管理指導、麻薬応需、365日対応が3点セット
基準調剤薬局としての夜間や休局日の対応を把握する
 - 調剤薬局の在庫状況等
使用期限が短い薬剤、多規格が存在する薬剤への配慮
卸からの供給がない土日・夜間は薬局の在庫で対応

在宅ならではの薬剤処方例

- 胃ろう患者でも使えるモルヒネ細粒 **モルペス®**
- 1日1回投与のモルヒネ製剤をヘルパー監視のもと確実に服用してもらう
カディアン®、**ピーガード®**、**パシーフ®**
- アセトアミノフェン口腔溶解錠市販薬の活用
タイレノールFD®
- 薬局想いの処方
最小包装単位14錠/箱である**ピーガード®**
デュロテップMTパッチ®は1箱5枚入り
フェントステープ®は1箱7枚入り